



俺みたいな
人間に身体を
許してしまう

その瞬間が
見ただけ



ただ
皆に愛されて
大切に
されてきた子が

ねえ次っ…
てさ…

んー



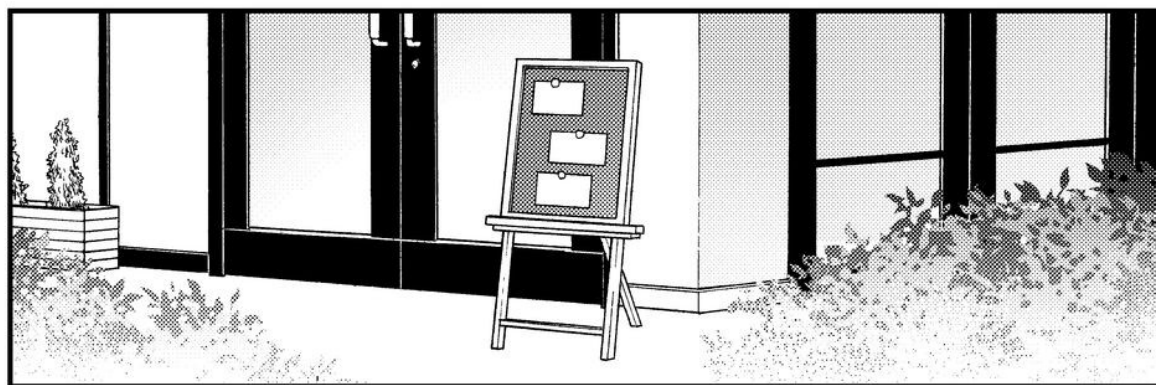
15時に
西通りの
カフェでどうですか？

了解



こういう
空っぽそうな子と
セックスするのは

!







今日は
もうちよつと

ゆきくんと
一緒にいたい…



私…



ね？
簡単でしょ



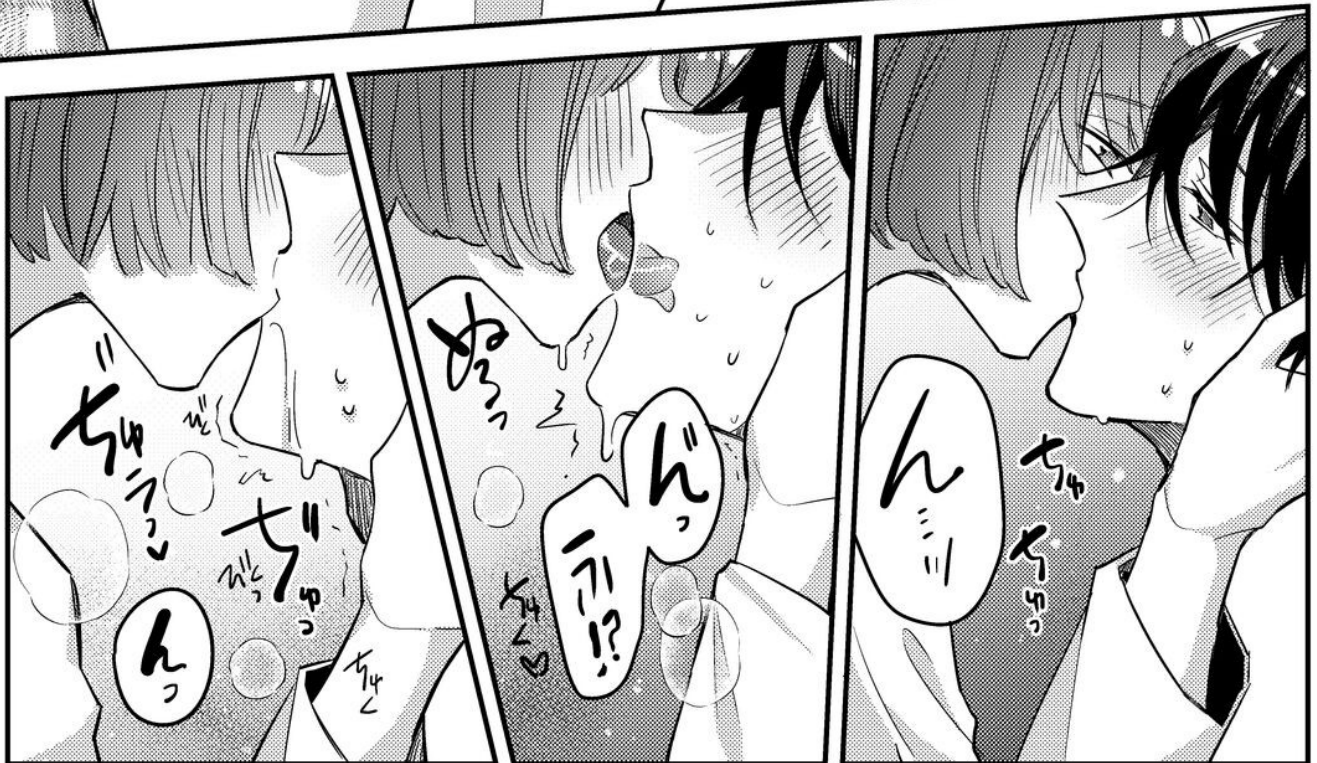
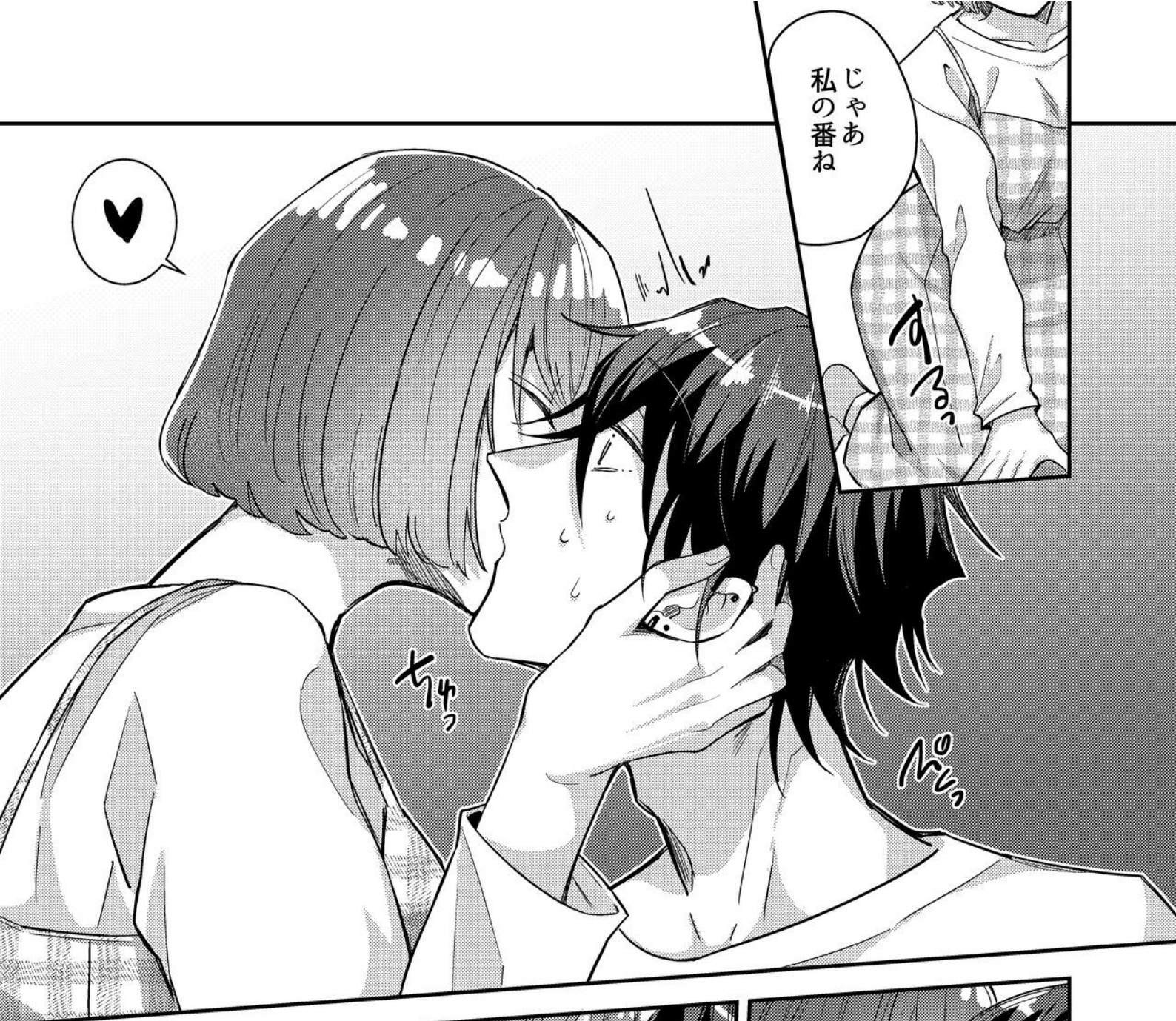
そんな1日
のはずだった

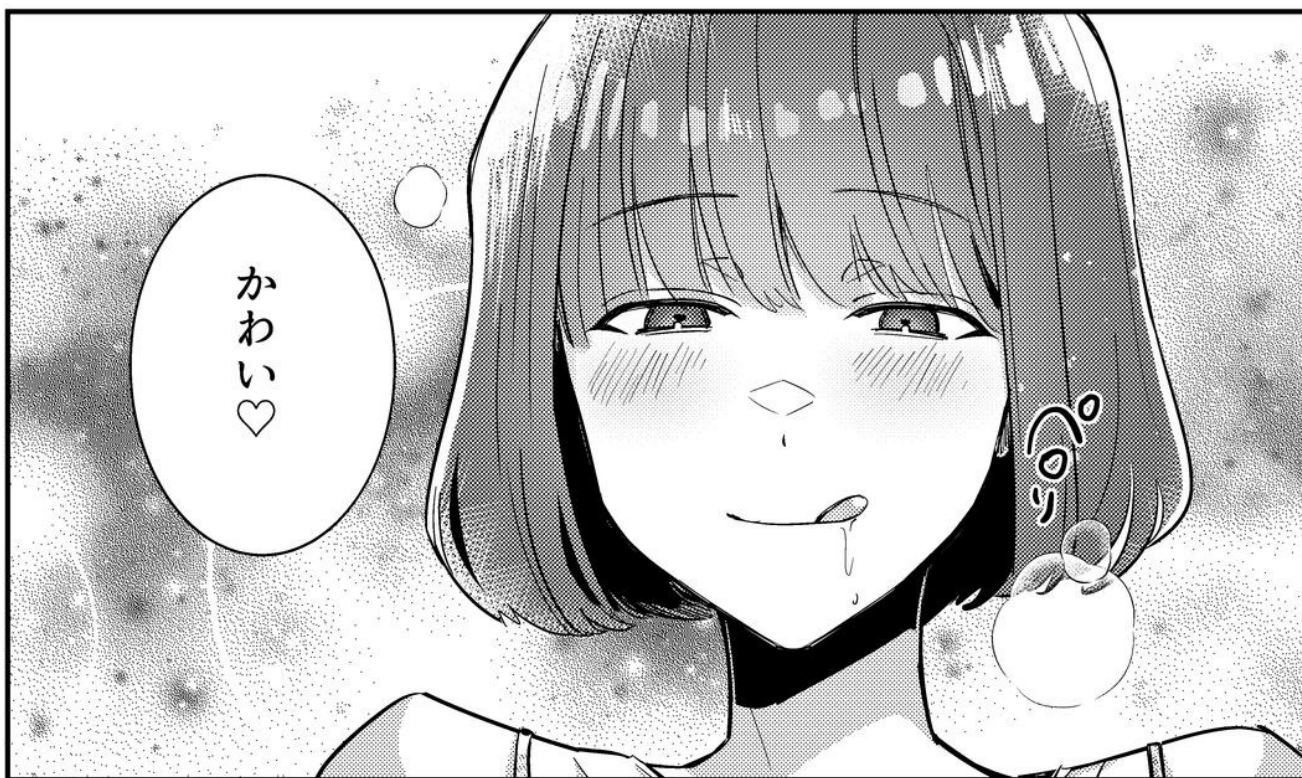
のに















…私も同じなの



ゆきくんって
さあ

いつも私みたいな
弱そうな
女の子狙って
適当言って

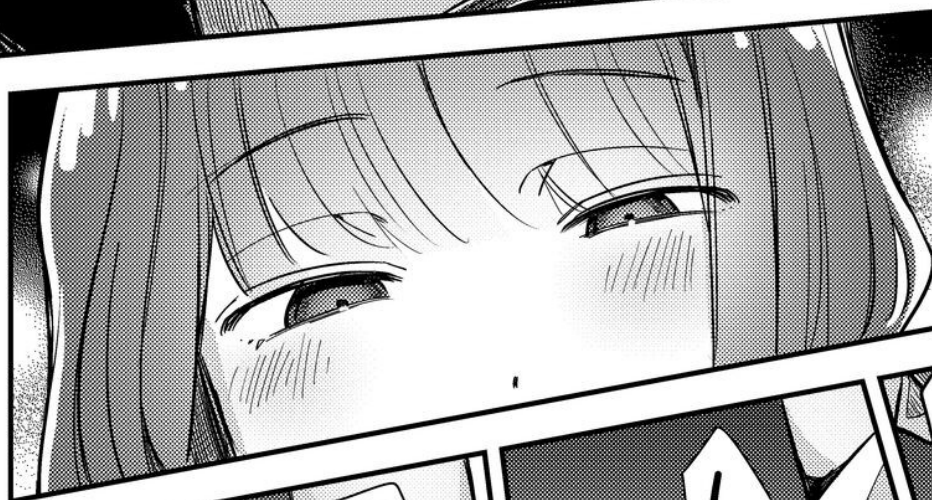
自分勝手な
セックス
してるんでしょ？

ににに



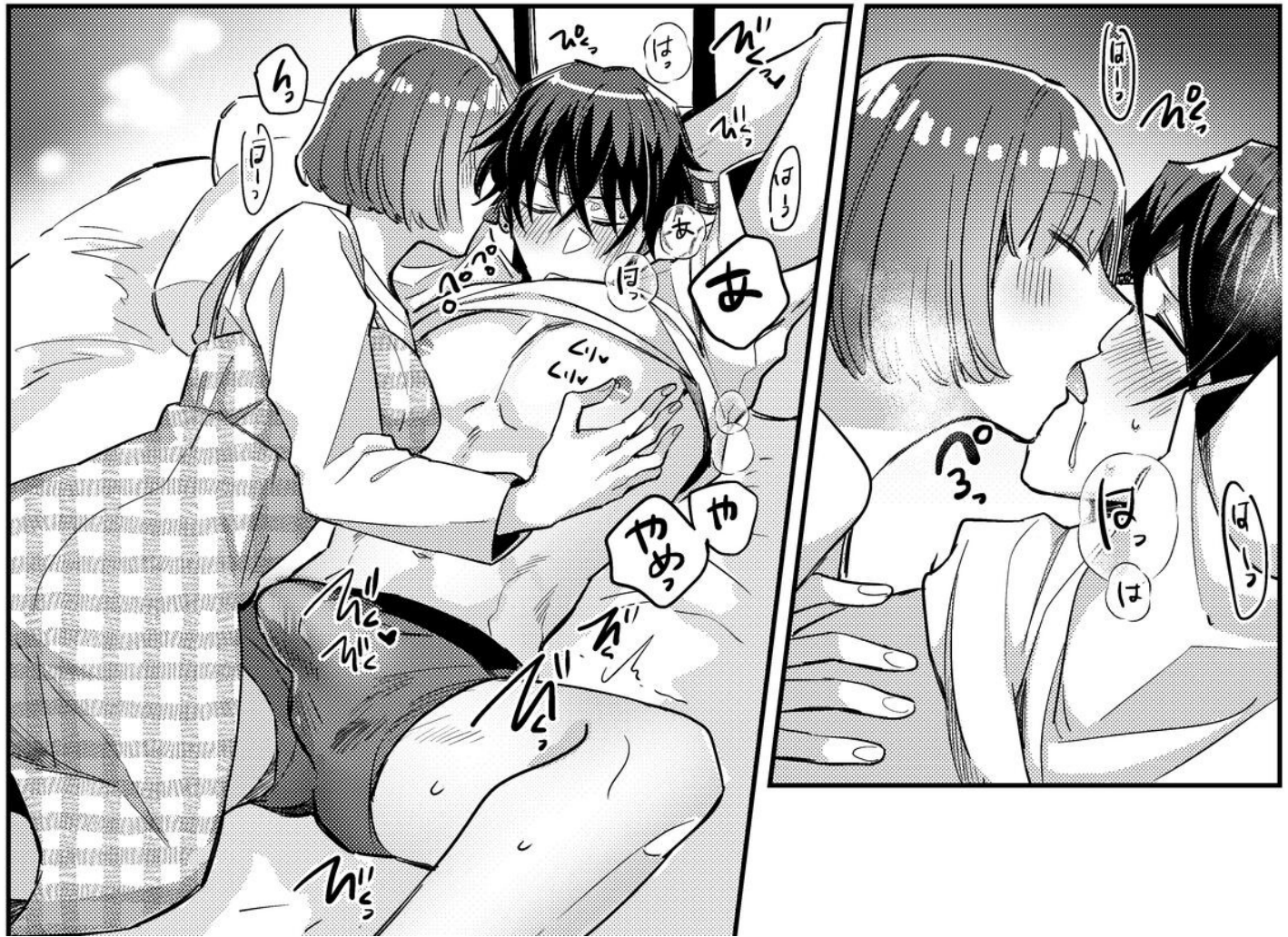
君みたいな
空っぽの男

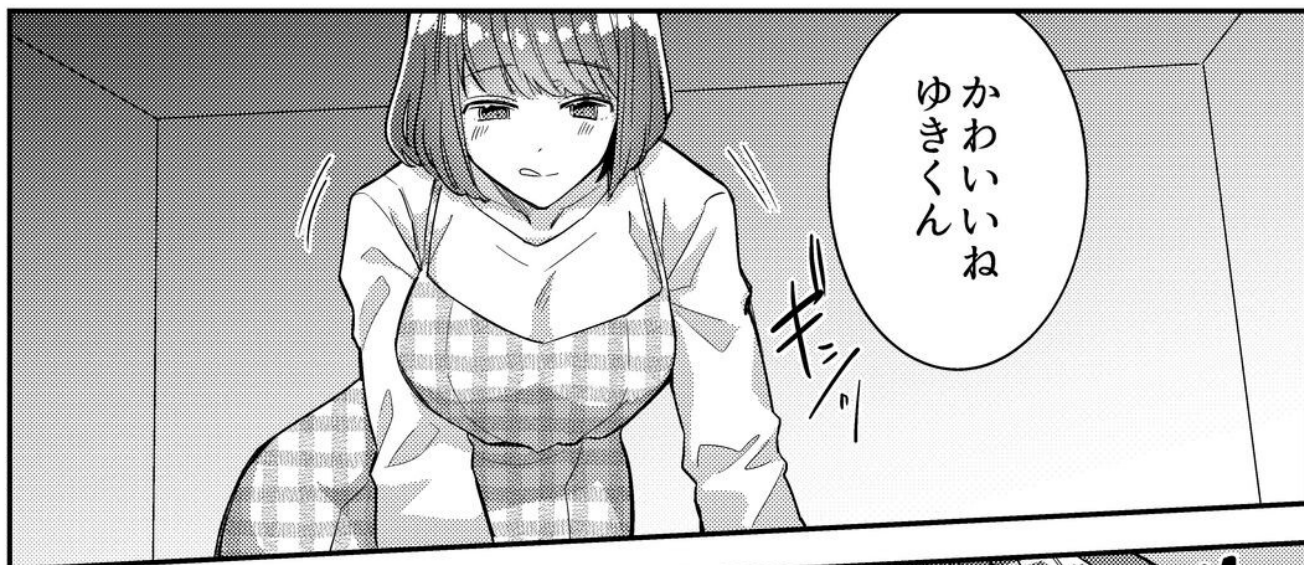
無茶苦茶に
したくて
仕方ないの



大丈夫
大丈夫
暴れないで









ごごめん
なさい!

ほんとにもう

ぽ
ぽ

クソとか
言わない
っから...!

しん
しん

ん
ん

じゅわ

...うん!

ちゃんと
ごめんなさい
できてえらいね

にゅあ

じゃあゝ

フ
ッ

あ

おちんちん
ヨシヨシって
してあげる

両方の乳首
こっやって
グリグリ
するのと

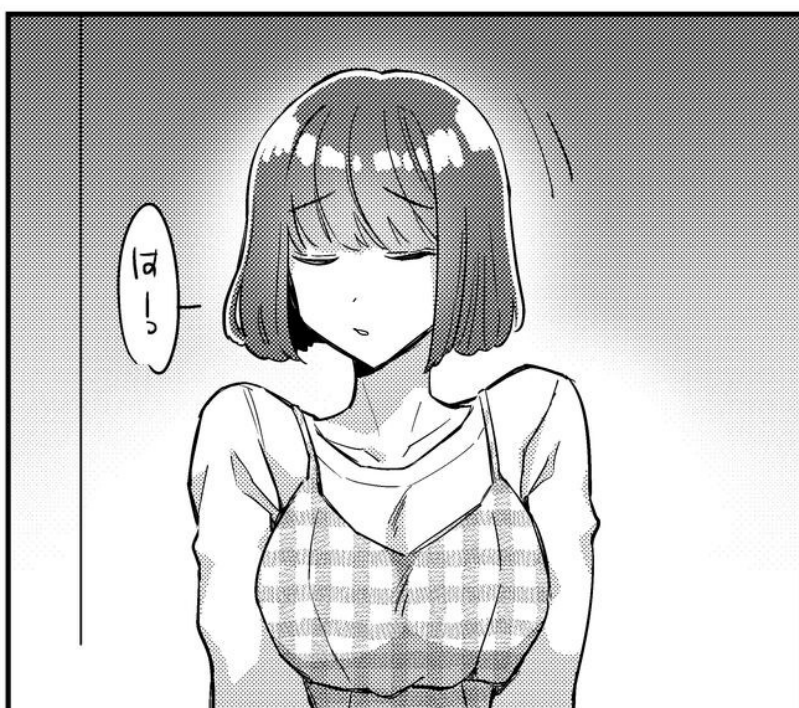
さきつぽ
ヨシヨシするの
どっちが好き？

そこばつかッ

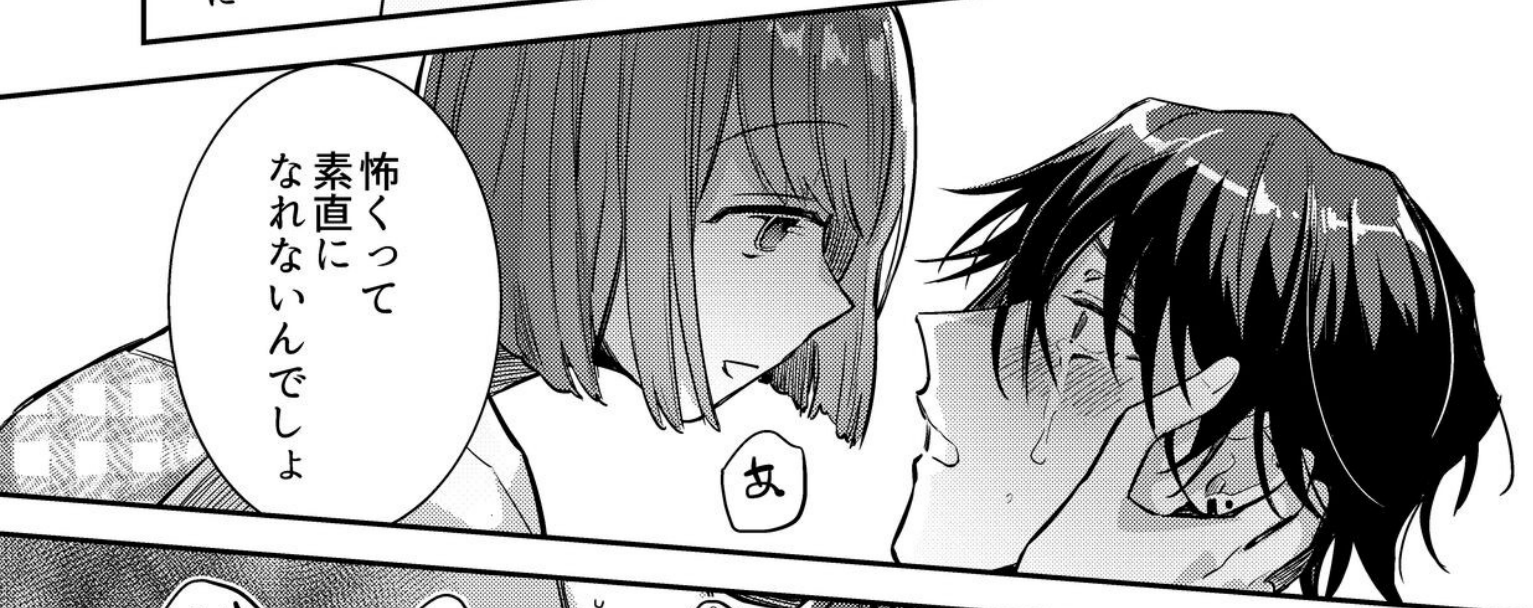
も、ゆるし

教えて？

そうじゃ
なくって……





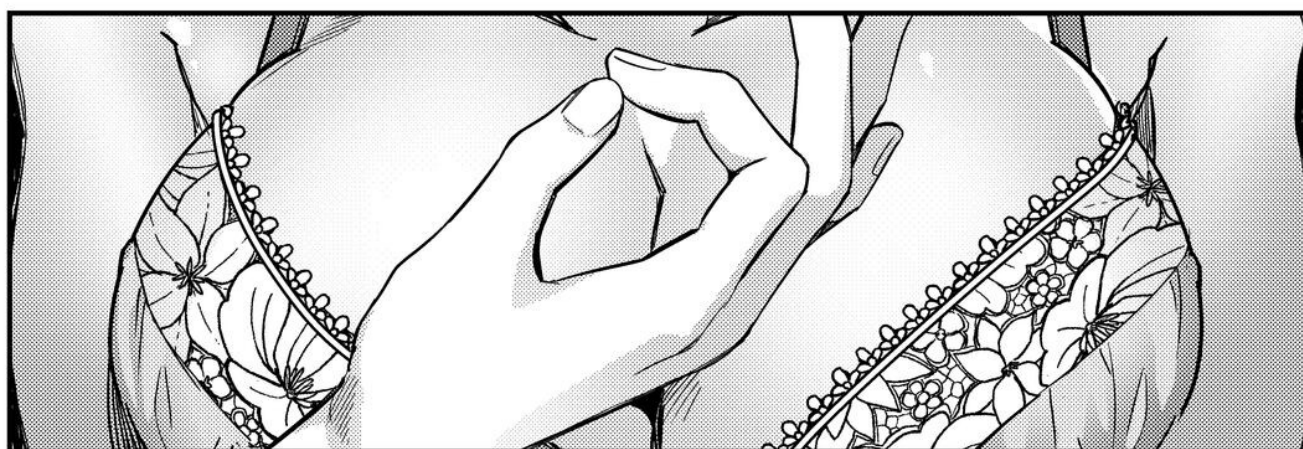


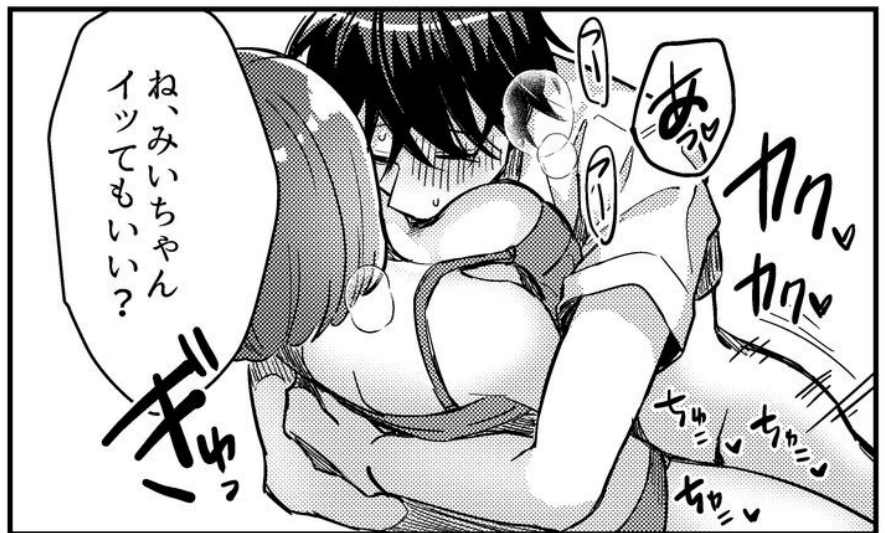




























じゃあ、
ゆきくんは
絶対に
動いちゃだめだよ？







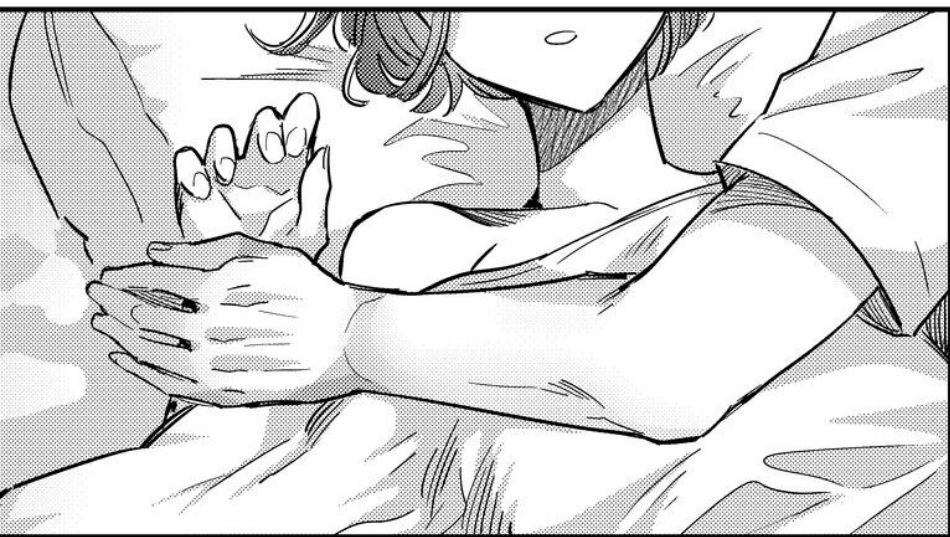


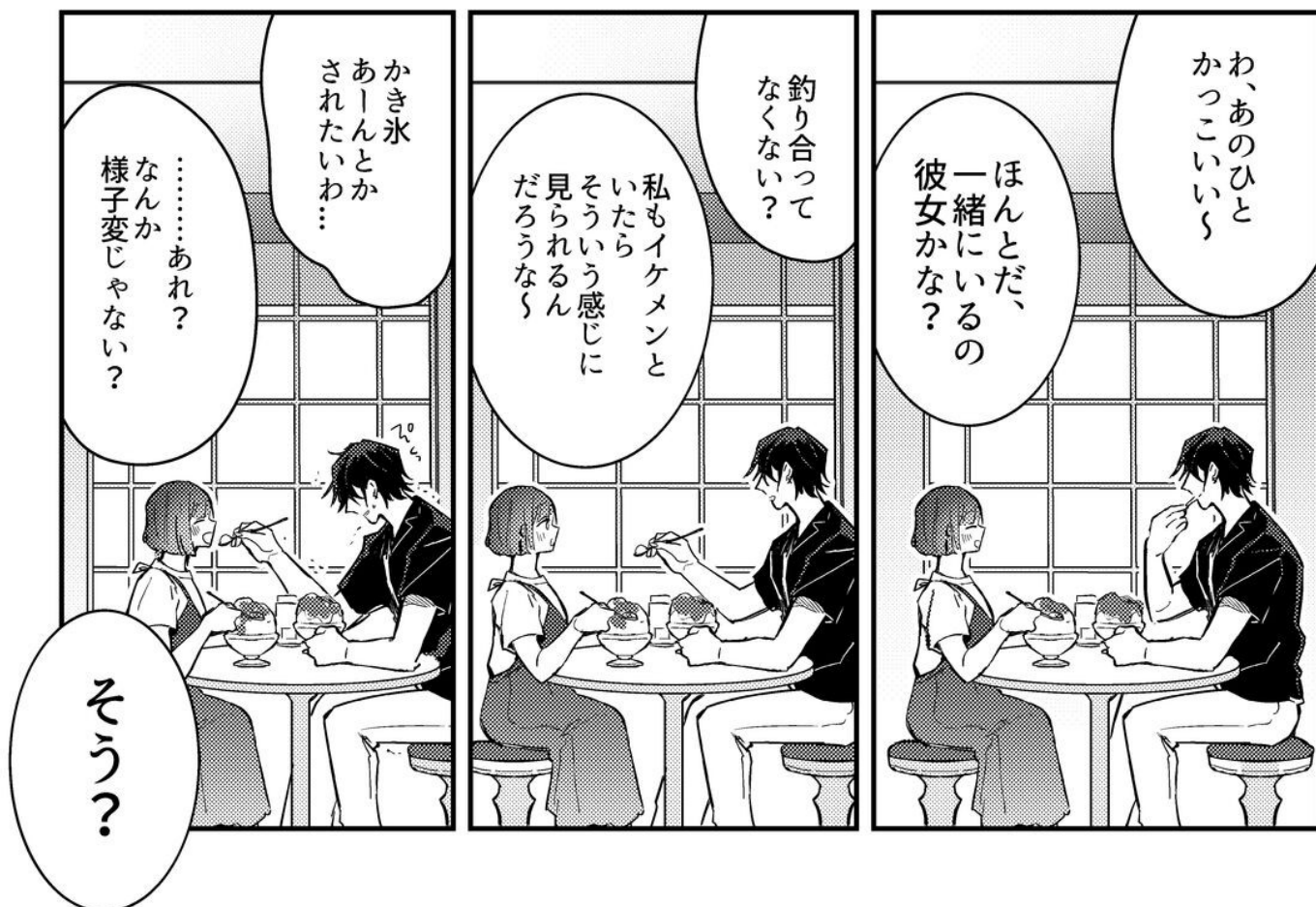
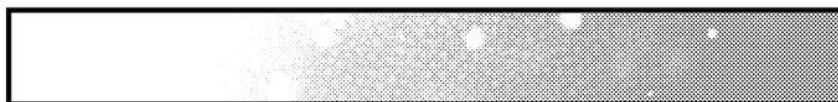


















あ

もつと

いじゅう♡

は♡

はーっ

もつと
褒めて……♡

は



こんにちは！輪子湖わこと申します

普段はBLをメインで描いているのですが
初の男女cp、そして初の原作付きで
まさかここまで私向けの原作で
作画させていただけると思っていなかったので
シナリオをいただいた時に大喜びしていました

普段から無害そうでかわいい子×イケメンが大大好きなので
本当に楽しく描かせていただきました

かわいーくて無害な女の子にチャラヤリチンイケメン君が
ドロドロにされる様子を楽しんでいただけると嬉しいです！

漫画

輪子湖わこ

原作

THE猥談編集部

Twitter : @the_waidan

Instagram : @the__waidan



おやすみ
いなか

アプリで好みの女の子を落として、遊ぶ側の男だったのに、今は乳首を弄られながら耳を犯されて勃起している

原案 - にくさんからのTHE猥談

THE 猥談

20歳大学生の僕はいままでの性体験から、自分の行為に少し自信があった。

同じ大学の女の子に手を出したり、T○nderで好みの女の子を探して惚れさせて遊び倒して、飽きたら連絡を切ったりしていた。

相手が喜びそうな言葉や対応は、デートや行為の最中にも前後にも抜かりなく散りばめた。自分のことを好きになってくれる人が好きだったからそうしてた。

お世辞にも褒められたものでない性生活を送っていた自分がその女の子に出会ったのは、大学3年の、春から夏に切り替わる頃だったと思う。

その女の子とはT○nderを通じて知り合った。その子は自分の話をするのが好きなおしゃべりな子で、自分の話をするより相手の話を聞く方が気楽な僕とは会話のテンポがちょうどよく噛み合ってた。

僕はデートまでに時間をかけて連絡をとって、電話をしたりして、付き合う一歩手前みたいなくらいの距離感で初デートを迎えるのが得意だった。だからその女の子にもそうした。

僕の最寄りの駅前で待ち合わせをして、車で迎えに行った。初めましての挨拶を済ませてすぐに手を繋いで、恥ずかしがるその子の顔を覗き込んで「カラコン可愛いね、似合ってるね。写真で見ると可愛くてときどきしちゃう。」って言う。

一緒にプリクラを撮って、一緒にご飯を食べて、そろそろ解散かなと思っていたら、「今日は一緒にいたい」と言われた。

僕の勝ちだと思った。今回の女の子にも、僕のことを好きだと言ってもらって、自尊心が満たされていい気持ちになれると思ってた。

そんなことなかった。

ベッドの上でひいひい言ってるのは自分で、にこにこしてるのはその子だった。

帰りたくないと言われてお酒を買い込んでホテルに入ったのは覚えてる。お酒に弱いらしいその女の子が顔を赤くしてにこにこし出したのも覚えてる。可愛いねって髪を撫でてキスしたことも覚えてる。

その後からちょっと想定外だった。

その子とのキスが気持ちよくて頭がびりびり痺れそうだった。「あふんふん」みたいなだらしのない情けない声から自分から出てくることにびっくりしながら、キスだけでもう限界なくらい勃起してた。

我慢できなくて押し倒そうとしたら、押し倒せない。まさか嫌なの？ここまできたのに？って思って、きつとマヌケな顔でその子と目を合わせたと思う。

そしたらその子にはやって笑って逆に押し倒してきた。

どうしてこうなってるのかよく分からなかった。乳首をかりかりされて、首筋もなめまわされて、耳も犯されて、やっぱり頭がびりびり痺れた。こんなことされた事無かった。

自分がにこにこして、相手が泣きそうな顔でよがってる。そういう構図しか見たことがなかった。その支配感とか組み敷いている感じが大好きだったのに、それなのに今は乳首をいじられながら耳を犯されて勃起している。

自分のペースや流れなんてものはとくに投げ捨ててる。悔しいけれど、この子にいじめられて気持ちよくて仕方なかった。

どうしようもないくらい悦んでる自覚があった。はやく下を触って欲しくて、ずっと腰が動いてたと思う。にやにやしながらパンツを脱がされて、恥ずかしい思いながらそれでも触ってもらえる、挿れさせてもらえると思って嬉しかった。

しかしそれも、そんなことなかった。

結局僕は、その子の指を舐めながら、その子の胸に顔を埋めて喘ぎながら、その子が指で作った輪っかに、犬みたいに腰を振って、何度も射精しただけだった。

「よしよし気持ちいいね～いい子だね～」って言われながら何度も射精して、何度もその子の指を綺麗に舐めた。

くっついて一緒に眠って、朝起きて準備してチェックアウトする。絶対にこのまま解散したくなかった。これっきり会えないのも嫌だった。

「好きです。付き合ってください。」
「知ってるよ、いつ言ってくれるのかなって心配だった。これからよろしくね。昨日は可愛かったよ。」

まさか昨日は可愛かったよなんて言われる日が来るなんて思わなかったけど、そんなこと言われて自分がよろこぶ日が来るなんて尚更思わなかった。

本気になったのは僕の方。それから毎日負けっぱなし。大好き。